

ルカ1:67-80のザカリヤの賛歌は、その出だしの言葉から「ベネディクトゥス」と呼ばれています。それはラテン語で「ほめたたえよ」という意味です。ザカリヤの賛歌「ベネディクトゥス」をより良く理解するために、ルカによる福音書に登場するこのザカリヤが誰かを知る必要があります。御使いガブリエルはザカリヤのもとに現れ、彼の年とった妻エリザベツが男の子を産むと告げました。しかし、御使いがザカリヤに息子、バプテスマのヨハネの誕生を知らせたとき、ザカリヤは御使いを信じることができませんでした。御使いの知らせを信じなかったザカリヤは、口がきけなくなりました。それから9か月間ザカリヤは沈黙の中で神様のみことばについて考え、祈り、思いを巡らせる体験をすることになるのです。

神様のみことばは、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益だと私たちは信じています。ザカリヤの9か月の沈黙は、彼の不信仰に対する神様の戒めだったのかもしれませんが。しかし神様は、罪を悔い改めて神様に立ち返る人々には、その戒めを驚くばかりの恵みに変えてくださるのです。神様は本当に素晴らしい恵みと憐れみをザカリヤに示されました。神様はザカリヤを憐れまれただけでなく、聖霊様の力と導きにより彼が預言できるようになさいました。

ザカリヤの賛歌を注意深く見ていくと、彼は自分自身のことをほとんど語らず、約束のお方、ご自分のもとに立ち返る人々を救って祝福されるイエス・キリスト、私たちの主、救い主に注目しています。このことから、ザカリヤの心と人生は、快適な暮らしや誉れのようなこの世の祝福ではなく、霊的な天の祝福に目を向けているがわかります。この義なる人ザカリヤは、失敗から学びました。戒めの痛みを通して、彼はより強い神の人となったのです。その結果、彼は、神様が、彼のような年老いてくたびれ、古くなった器をお用いになると信じました。

ザカリヤの息子、バプテスマのヨハネが生まれ、その子がヨハネと名付けられると、たちまちザカリヤの口が開け、舌は解け、彼は神様をほめたたえました。自由に話せるようになって、ザカリヤは歌わずにはいられませんでした。彼が話せなくなった直前に口にした言葉は、疑いの言葉でした。しかし、彼が話せるようになってはじめて口にした言葉は神様をたたえる言葉でした。ザカリヤは聖霊様に満たされて、心の底から湧き上がる喜びをメロディーにのせて歌いはじめました。それは、神様が人として来られ、神様の民の中に住まわれる目的と意味を歌ったものでした。神様が民のためになさることのために、彼は神様をほめたたえました。ザカリヤの賛歌は一行一行が旧約聖書から来ています。その一つ一つは、ある素晴らしい事実について、深い真理をもって書かれています。ついに、神様がイエス・キリストという人として来られたのです！

ルカ1:68を見てみましょう。この歌の意味は、この節に集約されています。「ほめたたえよ。イスラエルの神である主を。主はその民を顧みて、贖いをな(された。)」この節にあるように、神様がその民を贖うために恵みをもって訪れてくださったことこそが、この賛歌の核心です。ここで「贖う」、そして「主は…顧みて」(新改訳)/「主は来て」(JLB訳)という表現に注目しましょう。「贖う」とは、「代価を支払って自由にする」という意味です。これは、囚人や奴隷を解放することを示しています。また「主は顧みて/来て」というのは「主が訪れられた」とも訳すことができます。これは旧約聖書によく出て来る表現です。神様が、その

民を失望や束縛から救うために訪れられることを示す箇所でのこの表現が使われています。出エジプト記4:31「民は信じた。彼らは、主がイスラエル人を顧み、その苦しみをご覧になったことを聞いて、ひざまずいて礼拝した。」主は、イスラエルの民を助け、エジプトから救い出すために訪れられました。また同様にルツ1:6にもこうあります。「そこで、彼女は嫁たちと連れ立って、モアブの野から帰ろうとした。モアブの野でナオミは、主がご自分の民を顧みて彼らにパンを下さったと聞いたからである。」主がご自分の民を顧みられたので、落胆していたナオミはベツレヘムへ戻ろうと決心しました。このように、神様はご自分の民を訪れられると、いつも彼らを励まし、苦しみから救い出されます。

ザカリヤは宣言します。「主はその民を顧みて、贖いをな(された。)」罪と死の鎖から救うために、神様はイエス様という人のかたちを取り、ご自分の民を訪れられました。これこそがクリスマスの栄光です。神様が天から来られ、私たちに罪と死から救うためにイエス・キリストという人となられたのです。これこそがインマヌエル—神様が私たちと共におられるということです。そして、これがザカリヤの賛歌の中心です。これこそがクリスマスの意味です。ザカリヤの賛歌は、神様の恵み深い訪れがその人々にもたらずものを3枚の美しい絵のように歌っています。

### ① 神様は救いの角を立てるために、ご自分の民を訪れられた。

69節にある角は力と勝利のシンボルです。救いの角は、「力ある救い」「力ある救い主」「力ある勝利」を意味します。力ある神様はエルサレムにこう言われます。「シオンの娘よ。立って麦を打て。わたしはあなたの角を鉄とし、あなたのひづめを青銅とする。あなたは多くの国々の民を粉々に砕(く。)」(ミカ4:13)動物の角は力、それも野生の獣の力の象徴です。その角で敵を倒します。私たちの主イエス・キリストは、悪魔とその行いを破壊するために来られました。実に私たちの主イエス・キリストはご自分の民を救うために敵を倒されます。それゆえ、イエス様は「救いの角」、ダビデの家の「力ある救い主」と呼ばれるのです。クリスマスに、救いの角であられるイエス様—それは心躍るものではありませんか。

この角は楽器ではなく、野生の雄牛の角で、死をもたらし得る危険な武器です。興味深いことに、イエス様が「救いの角」と呼ばれているのは新約聖書でここだけです。ここに描かれているのは、人々が敵に捕らわれそうになったところに、助けが現れて、敵が負かされる様子です。それゆえ、敵はそれ以上人々を捕らえることができません。これは、神様の民の完全な勝利を意味します。神様が私たちのために救いの角を立てられたとは、私たちに力ある救い主がおられるということです。その救い主は敵を倒す力があるだけでなく、私たちに敵に打ち勝たせてくださいます。また「しもべダビデの家」とは、ザカリヤがメシアについて歌っていることを指します。ここから預言者が昔約束したことを、神様が成就しておられることが明らかになります。イエス・キリストが救いの角、力ある救い主と約束されたお方であることは言うまでもありません。そして、

イエス様こそが私たちの敵を倒す全ての力を持っておられます。また私たちを罪と死の束縛から解放し、私たちに勝利を与えてくださるお方です。

私たちの救いの角—イエス様は、罪の代価を払うことによって私たちを罪から解放するためにこの世に来てくださいました。私たちの救いの角—イエス様は来て、私たちに憐れみを与えてくださいます。それで、私たちは犯した罪のために罰せられずに済むのです。私たちの救いの角—イエス様は私たちの代わりに、完全に傷のないいけにえとして十字架で死んでくださいました。イエス様が私たちの代わりに流してくださった血潮により、私たちは罪から解き放たれました。私たちの罪の代価は、神様が御子イエス様の血潮で支払ってくださいました。今、私たちはあがない主にきよく仕えることができます。それは、私たちクリスチャンが罪の闇からきよめられたからです。また、私たちは正しく救いの角に仕えることができます。それは、私たち神様の民がキリストの義に覆われているからです。

## ② 神様は聖なる契約を成就させるために、ご自分の民を訪れられた。

ザカリヤは72-75節でご自分の約束を誠実に守られる神様に、賛美を歌います。その約束はアブラハムに誓われたものです。神様はアブラハムとその子孫たちと契約を交わし、彼らを敵から救うと約束されました。全能の神様がそうすると約束してくださったのです。確かに、神様はそれを成し遂げる働きを始められました。「古くから、その聖なる預言者たちの口を通して、主が話してくださったとおりに」(70節)、神様がしておられること、神様が「聖なる契約」(72節)を覚えておられること、われらの父アブラハムに誓われたこと(73節)をザカリヤは指摘しています。ザカリヤはある一つの約束のことを考えていました。それは、神様がわれらの父アブラハムに誓われた聖なる契約です。神様のアブラハムとの契約とは、アブラハムが人々の祝福となることです。この地上の家族すべてがアブラハムにより、また彼を通して祝福されるという意味です。すなわち、これはアブラハムとその子孫だけでなく、イエス・キリストを信じる全世界のための祝福なのです。

神様の契約は、決して私たちを失望させることはありません。神様のみことばの約束は、必ず成就されます。民数記23:19は、神様の約束の確信を私たちに与えてくれます。「神は人間ではなく、偽りを言うことがない。人の子ではなく、悔いることがない。神は言われたことを、なさないだろうか。約束されたことを成し遂げられないだろうか。」御子イエス様を通して私たちと契約を交わされた天の父なる神様は、必ずそれを成就されます。今日クリスマスの日、そのことを覚えましょう。神様はご自分の時と方法で、ご自分の栄光と目的のために、約束されたことを成し遂げられます。

### ③ 神様は新しい一日の日の出を与えるために、ご自分の民を訪れられた。

神様は、そのひとり子を「日の出」または「天の光のあけぼの」として私たちに送られました。イエス様はまぶしい朝の光として天から来られ、暗黒と死の陰にすわる人々を照らし、平和の道へと導かれます。本当に、私たちの主イエス・キリストは、私たちの闇にある光でいてくださり、平和の道へと導いてくださいます。神様が人のかたちを取られ、イエス様が来てくださる前は、人々は闇と死の中にいて、苦悩に束縛されていました。しかし、私たちの救い主イエス様、不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君が私たちに光といのちと平和をもたらしてくださいました。

神様がご自分の民を訪れてくださったので、新しい一日が始まりました。そうです。イエス・キリストがお生まれになったときに、新しい日がやってきたのです。このお方こそ、2000年前にベツレヘムでお生まれになった朝日です。朝日は、地平線から上がって闇の世界を照らしました。日の出がいと高き所から、イエス・キリストという人となって私たちに訪れられました。神様は暗黒と死の陰にすわる人々に光をもたらすために、ご自分の民のところへ来られました。私たちが闇の中や死の陰で迷っているとき、神様は天から光を明るく照らし、私たちの足を平和の道に導いてくださいます。

世の光が私たちの人生に来られると、闇の力は逃げていきます。まことの光が来られると、私たちは罪の束縛から解放されます。朝日が昇ると、私たちは神様とともに平和の道を歩みます。今日クリスマスの日、この聖なる訪問者、私たちの救いの角が来られ、その聖なる約束を果たすために、私たちの心の扉をノックされます。今日、あなたはこのお方のノックが聞こえますか。このお方は新しい日の始まりを私たちに与えるために、ドアの向こうで忍耐強く待っておられます。

アーメン